

色ベタ (流用)
or
(スミベタ)長尾 瞳
NAGAO, Hitomi

帝京大学医学部 麻酔科学講座

神奈川県出身

東海大学医学部・2011年卒業

＜所有資格＞ 11a ロダシDB (16) H

日本専門医機構認定麻酔科専門医 / 麻酔科学会指導医、認定医 / 麻酔科標榜医 / ペインクリニック専門医 / NCPR インストラクター / J-CIMELS ベシックコースインストラクター

11a ロダシM (16) H
22w 話

■座右の銘

Where there is a will, there is a way.

■医療に関する特技

一針入魂の無痛分娩

■これからの目標

誰でもどこでも無痛分娩を選択することができるよう、日本での無痛分娩普及に貢献していきたい。

やりたいことがあれば全国どこでも赴いてきたが、子供が生まれ、家を構えたことで、住んでいる地域の医療を支えたいという思いが湧いて、学生の頃に抱いた地域医療に再び立ち返ることになり、巡り巡ってこの思いを形にできた嬉しい。

■message 12a ロダシB (18) H

私はとりわけ優秀でも技術に秀でているわけでもなく、自分が患者さんにとってどんな存在でありたいかを軸に、自分に足りないものや好きなことに取り組んできた。行動を起こすと助けてくれる人は必ずいるので、どうか「やってみよう」「こうなりたい」気持ちを大事に、せっかく選んだ医師という道を豊かなものにしてほしい。かくいう私も道半ばなので、背伸びでも挑戦を続けていきたい。

酔科専門医を取得して、さてこれからどうしよう。

サブスペシャリティ？ 研究？ 麻酔は楽しいし、どれもやってみたい。

結婚や出産はどうしよう？

先輩たちは、どうしてきたんだろう…？

みんなのプロフィール帳

◆ 医師を志した動機 ◆

大きなきっかけがあったわけではなく、物心ついた頃からの「夢はお医者さん」が変わらず、導かれるように一直線にここまで来た。

医学部卒業からこれまでの歩み

1 年目 (2011 年) : 在沖縄米海軍病院 インターン

学生時代の米海軍病院実習で標準化された研修システムに感銘を受け、米海軍で臨床を学ぶべく、その足掛かりとして海軍病院のインターンを選択。地域医療に興味があり、家庭医として周産期医療に関わることを志していた。

2 年目 (2012 年) ~ : 大浜第一病院 初期研修

沖縄で初期研修の傍ら留学の準備を進めることにしたが、研修中に自分は内科医に向いていないことを自覚。その頃、" かつこい" 麻酔科の上司に出会い、分と秒を相手に全身管理を行う手術麻酔にピンと来て、麻酔科医を志すことに。

4 年目 (2014 年) ~ : 東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座 後期研修

大好きな沖縄に未練を感じつつ、色々な流派の麻酔を学びたいと思い、勢いを感じた慈恵へ入局する。同期に恵まれ、苦楽を共にした仲間の絆は今でも強い。

6 年目 (2016 年) : 麻酔科標榜医、麻酔科認定医 取得

7 ~ 8 年目 (2017 ~ 2018 年) : 全国行脚修行の旅

慈恵では手厚い指導が受けられる反面、つい甘えて一人で乗り切る力が足りないと感じ、上司に相談して、苦手な分野と好きな分野、各領域を一流に学ぶ修行を計画する。医局を離れ、末梢神経ブロックを宇部中央病院と関西医科大学附属病院で3か月間ずつ、小児麻酔を千葉県こども病院で6か月間、産科麻酔を順天堂大学医学部附属順天堂医院で1年間学んだ。それまでの学会講演や懇親会で、この先生に学びたい！と思った先生に師事できて、とても充実した時間を過ごした。また、一流の傍で、凡人の自分にできることは何だろうかと考えさせられたことも、後の仕事への向き合い方に影響を与えた。

9 年目 (2019 年) : 関西医科大学 麻酔科学講座 入局、学会麻酔科専門医 取得
区域麻酔やペインクリニックを学びに関西医大へ戻ること。3 次救急施設の上当直を通して、色々な人の助けを借りながらも「乗り切る力」を身につけたことは大きな財産に。

11 年目 (2021 年) : 帝京大学医学部 麻酔科学講座 入局

終わりの見えないコロナ禍で、東京へ帰ることに。友人の紹介で入局する。

12 年目 (2022 年) : 無痛分娩立ち上げ

事実上の責任者に就任。約1年間の準備期間を経て、無痛分娩の提供を開始。周産期チーム全体で同じ方向を向くことが不可欠であり、施設主催のシミュレーションコースを立ち上げたり、勉強会を開催するなど、職種を越えてコミュニケーションを深めていった。容易ではなかったが、チームの成長とともに組織マネジメントの面白さを知った。

13 年目 (2023 年) : 結婚、麻酔科学サマーセミナー代表世話人

ふと貰った米国留学の話に飛びつくも、最後にチャンスを逃す。落ち込んだ数か月間を経て、しばらく感じていた人生の停滞感を払拭すべく、スピード婚。その後、縁のある沖縄で毎年開催されるサマーセミナーの代表世話人の話を頂く。世代交代で師匠方から引き継ぐ形になり、プレッシャーを感じつつも、大会コーディネーターという新しい仕事にわくわくした。

14 年目 (2024 年) : 出産、ペインクリニック専門医、麻酔科指導医、機構認定麻酔科専門医 取得

高齢出産のリスクとキャリアにおける信頼喪失の危機感の狭間で、覚悟を持って妊娠9か月でサマーセミナーの主催を無事に終え、無痛分娩で出産。絶大な効果を実感し、復帰後の大きなモチベーションになった。育休中にペインクリニック専門医を取得。馴染みのある土地にマイホームを購入したことで、再び地域医療への思いが膨らむ。

15 年目 (2025 年) : 育休復帰

東京都の無痛分娩費用助成開始に向けて、主に地域の一次施設へ向けた研修会を開催することになり、準備を開始。